

Researcher Mobility Grant 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

1. 氏名/Name Dr. Qian HUANG

2. 所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position

Assistant Professor in Digital Culture, University of Groningen, The Netherlands

3. 研究期間 (入国日～出国日) /Period of Stay (from the date of entry to departure)

2026/6/15～2026/7/4

4. 専攻/Field of Research

メディア研究 / Media Studies

5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation

田中洋美 情報コミュニケーション学部

6. 講演会の概要 (タイトル、日時、場所、参加人数、内容)

20 日間の滞在中に 3 つのセッションを本学駿河台キャンパスで実施した。台風等あいにくの天候もあり参加者数は前後したが、各セッション約 10～25 名、累計約 50 名の参加があった。参加者の内訳は本学および他大学の学生、教員、社会人であり、特に大学院生の参加が多かった。また海外からオンライン参加の可否について多数問い合わせがあったが、諸事情により対面のみで開催とした。今後の課題としたい。

第 1 回:「Fandom Nationalism: Participatory Censorship & Performative Patriotism in East Asia (ファンダム・ナショナリズム: 東アジアにおける参加型検閲と愛国主義)」、6 月 18 日、17:10-18:50、リバティタワー1126 教室、26 名

本講演では、中国で発生した著名俳優に対するボイコット (キャンセル) の事例研究に基づくポピュラーカルチャーと政治の交差に関する研究成果が報告された。「参加型文化」(ジェンキンス)の担い手であるファン (やアンチファン)の熱狂や敵意がナショナリズムを通じていかに「兵器化」するのか、デジタルな戦争とセレブリティ排除のメカニズムが論じられた。既存の研究と新たな実証研究に基づき「参加型検閲」や「パフォーマティブな愛国主義」という概念を生み出し、それらを用いて人気俳優がどのように政治的・経済的・文化的に排除されたのか、そのプロセスが精緻に明らかにされた。昨今ソーシャルメディアを媒介としたキャンセル文化は世界各国で起きている。本講演を通じて、それがデジタルメディア、文化、規制、アイデンティティ・ポリティクスを研究する上で極めて重要な現象であることが示された。また質疑応答では活発な意見交換が行われた。

第 2 回:「Innovative Methods: In Studying Digital Visibility Negotiation (デジタルメディア研究の革新的方法)」、6 月 23 日、17:10-18:50、グローバルフロント 4031、12 名

デジタルメディア研究におけるエスノグラフィーは、SNS 上での個人の日常的な実践や相互作用の分析を可能とする一方でアクセスや実用性の問題、データの見落としといった

リスクもある。本セッションでは、こうした課題に対応する有効なアプローチとして「ガイド付きマルチモーダル・ジャーナリング」が紹介された。本手法は「メディアダイアリー」と「ウォークスルーメソッド」を統合したもので、デジタルな可視性をめぐる交渉実践を記録しデータ化できるという利点を持つ。講演では、具体的な研究事例をもとに同手法の特徴や活用法、直面する困難への解決策が提示された。また質疑応答では、大学院生を中心に多くの質問や相談が寄せられ、研究への応用をめぐり活発な議論が交わされた。日本語文献が少ないことから、特に学生にとっては同手法を学ぶ貴重な機会となった。

第3回:「Follower Removed: Platform Censorship of Feminist Content Creators on Xiaohongshu (外されるフォロワー: 中国のソーシャルメディア「小紅書」におけるフェミニスト投稿者・配信者をめぐるプラットフォーム検閲)」、6月25日、17:10-18:50、グローバルフロント4021、11名

近年、中国の主要 SNS「小紅書」ではフェミニズム関連のコンテンツが急増している。本講演では、黄先生が同プラットフォームのフェミニスト・クリエイターを対象に実施した最新のインタビュー調査にもとづく研究成果が報告された。小紅書では、さまざまなフェミニズム関連の投稿が行われているが、その一方でフォロワーの組織的削除といった独自の検閲が深刻化している。公園では、他国のコンテンツモデレーションとは異なるクリエイターと視聴者の「パラソーシャルな相互関係」を標的とした検閲メカニズムの実態や、それに対するクリエイター側の交渉が精緻に分析された。本セッションを通じて、自己表現の拡大と監視・暴力というプラットフォームの功罪が浮き彫りとなった。質疑応答では、クリエイターの類型化やオンラインハラスメント、過去の検閲との連続性や変化の可能性について活発な議論が行われた。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

アジアにおけるデジタルな可視性に関する共同研究に基づき、昨年は国際学術雑誌で特集を刊行した。今回の滞在では同研究の発展に向けて協議し、(1)デジタルプラットフォームによる美容の言説・実践、(2)デジタルテクノロジーに伴うジェンダー暴力、(3)同プラットフォームにおけるフェミニズム・ジェンダー言説の越境的フローの3つの軸からなる「東アジアにおける越境的デジタル文化の国際比較研究」の展開を決定した。滞在中には次年度の国際学会にて上記(1)のパネルセッションの企画について検討し、準備に着手したほか、今後の助成申請や既存の研究ネットワークの拡大、若手研究者を含めたコラボレーションについても協議した。

